

令和2年度 第2回 日進市食育推進委員会 会議録

日 時 令和3年2月1日(月) 午後2時から午後4時まで
 場 所 日進市役所南庁舎2階第5会議室
 出 席 者 安達 内美子、吉田 萌、朝井 基晶、久木 陽子、村瀬 幸代、植木 佳代、
 岩本 直美、森田 美佳、下野 房子、小金澤 衣里
 欠 席 者 なし
 事 務 局 農政課 課長 祖父江 直文、課長補佐 岡田 剛、主事 鈴木 裕
【関係部署(説明のために出席した職員の職氏名)】
 健康課 榊原 裕美、こども課 木村 文香、学校教育課 今枝 吉紀

傍聴の可否 可

傍聴の有無 なし

公開・非公開の状況 公開

次 第 開会あいさつ
 会長・副会長の選任について
 第3次日進市食育推進計画等について
 議 題

- 1 令和2年度事業の進捗状況について
- 2 令和3年度事業計画(案)について

意見交換その他

配布資料

- ・次第
- ・令和2年度実施事業一覧
- ・令和3年度事業予定一覧

(参考資料)

- 第3次日進市食育推進計画
- 第3次日進市食育推進計画 概要版
- 第3次日進市食育推進計画 目標値指標
- 第3次日進市食育推進計画 目標値指標対応事業数一覧

発言者	内容(要旨)
事務局	・開会(午後2時00分)
事務局	任期満了に伴う新委員委嘱後、1回目の委員会であるため、会長が決まるまでの間は、産業政策部農政課長が議長代理として議事進行を行います。
議長代理	日進市附属機関の設置に関する条例施行規則第3条第1項の規定に基づき、会長の選出を行います。会長の選出について、推薦等ありますか。
委員	前任期の食育推進委員も務められ、学識経験や知識をお持ちの安達委員を推薦したいと思います。
議長代理	安達委員の推薦がありました。他にはありませんか。それでは賛成の方は挙手をお願いします。
全委員	(全員挙手)
議長代理	全員賛成でありましたので、会長は安達委員に就任していただきます。安達委

発言者	内容（要旨）
	員には、会長席に移動いただき、あいさつと副会長の選任をお願いします。
会長	・あいさつ 副会長には、食に深く関わる地元の農業事情に精通している吉田委員を指名します。
会長	議事に入る前に、本会議の公開の可否について発議させていただきます。本日の議題については個人に関する情報等、明らかに公開するのに適当でない事項はありません。よって、会議は公開でよろしいでしょうか。
全委員	特に異議なし（全委員賛成）。
会長	・傍聴者の確認
事務局	（傍聴者なし）
会長	本日の議題に入る前に、新しい委員が多いため、事務局より第3次日進市食育推進計画の概要について説明をお願いします。
事務局	（事務局説明）
会長	それでは議題1「令和2年度事業の進捗状況について」、議題2「令和3年度事業計画（案）について」、について、関連のある内容ですので、一括にて事務局より説明をお願いします。
事務局	（健康課、こども課、学校教育課、農政課が説明）
会長	ありがとうございました。それでは議題1「令和2年度事業の進捗状況について」、議題2「令和3年度事業計画（案）について」、何かご質問・ご意見等ありますでしょうか。
委員	今年度、新型コロナウイルス感染症の影響で、小学校の調理実習ができず、授業では野菜を包丁で切る作業だけを行い、切った野菜は自宅に持ち帰りでした。その野菜を使って料理した家庭もあると思いますが、どのように取り扱われた野菜か分からないため、やむなく捨てた家庭もあったと聞ききました。こういう状況なので、学校も今やれる段階のことを考えての対応だと思いますが、来年度も今回と同じ授業を行うのはどうかと思うところがあります。食材を目の前で捨ててしまうことはもちろんですが、食材を切る体験のみで、調理も食べることもせず持って帰ることは、教育、食育につながるのだろうかと思いました。 今年度は予測できない状況が続き、対応も難しく、やむを得なかったと思います。しかし、今後も予測しがたい状況が発生した場合、どのように対応していくのか。学校で対応できないことは、家庭に任せてみるのも良いのではないかと思います。例えば、家庭で、親子で食育を行い、学校に学習活動として提出するなど、家庭を巻き込んでみではどうかと。親によっては子どもの学校生活に興味を持っていない人もいますし、宿題にすればやらなくてはならない。そういうきっかけから何かが芽生えることもあるのではないかと思います。私自身、持ち帰った野菜について、子どもの説明を聞いて、食べるのはちょっとやめておこうかなと感じる取り扱い方でした。今年度はともかく、2年目、3年目はどうしていくのかということ、いろいろ組み立てていけたらと思います。
会長	他の自治体では、調理実習は行ったものの、試食はせずに全部廃棄したという

発言者	内容（要旨）
	話を聞いています。一方で、バーチャルで調理実習ができる機械を貸出す事業者もあります。ご意見のように、同じことの繰り返しではなく、少しずつ改善できるように取り組んでいけるとよいと思いますが、学校教育課では何か話題になることはありますか。
事務局	今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、例えば、音楽では口を大きく開けて歌えないなど、各授業の仕方もしろいろ対策を講じながら行っていると聞いています。調理実習についても特別教室が利用できない状況なので、次年度以降の授業をどうしていくか、各学校において話し合いが行われていると思います。今いただいた話については、学習指導要領に基づき、野菜を切る体験を目的に行った授業だと思いますが、それによって廃棄が出て、マイナスに働いてしまうことがあるとのご意見でしたので、各学校に伝えて、改善できるように試みはしていきたいと思います。
会長	目標値指標に「食べ残しをやめる」というのがありますが、それ自体、食品ロスになりませんか。
委員	<p>例えば、5年生に農業体験を行うとか、学年によって学習内容が決まっています。しかし、新型コロナウイルスの影響で機会を逃してしまった子どもたちは、そのまま過ぎていき、それで終わりになってしまうと、やっていることが逆行してしまうと思います。</p> <p>あと、学校については「ムラ」が気になります。あの学年はものすごく恵まれているけど、あの学年は恵まれていないとか。あの小学校はものすごく恵まれているのに、この小学校は恵まれていないとか。そういう差がものすごくあると思います。そういう差の解消について、各学校なりに対応はしているのでしょうか、保護者同士の話で聞くと、そういう文句が出るのですが、文句を言って終わりになってしまう。しかし、実際に学習している子どもたちは、それで終わってしまうので、学校任せではなく、市からも学習活動の基準みたいなものを示して、「こうした基準を基に各学校で考えてください」、といった足並みを揃えられるようなものを補填する形でできていくと、それぞれの学校で考える力が出ると思うのですが。</p>
事務局	本委員会の委員は、市内で何らかの食育活動に関わっている皆さんですので、今の子どもたちに体験できない部分や穴となる部分に取り組んでいただきながら、今後も事業を考えて、または修正いただき、互いに補いながら進めていければと思います。新型コロナウイルス感染症の対策を行いながらの中で、子どもたちの生命の安全を第一に考えると学校ではできないことでも、地域や家庭ではできることもあるでしょうし、そうした補い合いができるとうよいと思います。
委員	質問です。先ほどの話は少しショックを受けたのですが、日進市では、こうした事態になった場合、例えば、体育では間隔を空けて行うとか、教科別に連絡を取り合うといったことはないのですか。家庭科の先生なら、調理実習が困りますよね。家庭科の先生が集まって情報交換を行うことはないのですか。
事務局	中学校では専科があるので、学校間の情報共有等は行っています。小学校でも、

発言者	内容（要旨）
	同様の事態に陥っていますので、当然、情報共有は行っていますが、各学校の規模や児童数が違うため、例えば、相野山小学校は全児童数が約 240 名ですが、南小学校だと 1,000 名近い規模ですので、全く同じ対応ができるかという、難しい問題だと思います。情報共有や情報交換自体は行っていますが、やはり各学校の事情等がありますので、難しいところはあると思います。
委員	調理実習が野菜を切って終わりと考えている先生がいるのであれば、あまりにも知識がない。調理実習とは、全部含めて調理実習だと思います。例えば、自分たちが食べた給食の食材表示を見るなど、工夫はいくらでもあります。教材は子どもたちの周りにいっぱいあります。だから、食材を切って捨てているなんて活動はやめてほしいです。先生たちはもっと工夫しないといけない。なぜ、5、6年生に調理実習があるのか、その辺から考えていただかないと。そう考えれば、教材はたくさんあると思います。いい機会と捉えて、調味料の表示を見るときか、醤油だけでもいろいろ種類があるので、それを学習するときか、そういうのも広い意味で調理実習だと思います。先生たちも忙しいとは思いますが、本日出たような、食材を切って捨てるという活動は絶対にやめてほしいと思います。
事務局	新型コロナウイルスへの対応の下だからこそ、通常の調理実習とは違った学習の仕方、学び方があるのではないかと、広げて考えられたら良いと思います。
委員	5、6年生は同じ教科書を使用しますが、作るだけでなく、いろいろな内容があります。ですので、今できることをやっていくのが良いのかなと思います。あえて野菜を切る活動ではなく、柔軟に対応していけばよいかなと思います。
会長	この場で議論する内容ではありませんので、参考程度の話としてですが。栄養教諭が各学校に配置されていないこと自体も、教育の不平等の一つではないかと、私自身は思うことがあります。栄養教諭が指導に取り組んでいる学校では、食育がしっかり進められている反面、やはり配置されていない学校では、なかなか進んでいないことがあります。そういうところから差が生じることはあると思います。
委員	保護者からきちんと声をあげていただくことだと思います。横のつながりもあるし、他の学校の事情も分かっていると思うので。例えば、担任の先生を通じてとか。それを上にあげてもらい、何か考えてもらわないと、新型コロナウイルスだけでなく災害だって起きるので、ぜひ行ってもらいたいです。
委員	分かりました。提案してみます。
委員	学校教育として、例えば、栄養教諭がいない学校については資料などの媒体を共有することはできないですか。
事務局	栄養教諭の配属状況については、学校教育課が直接関係しているものではありませんので、申し訳ありませんが、正確な状況は把握しておりません。給食センターに数名と日進中学校と北小学校とあと一校に所属していると聞いています。例年、朝食指導として市内の全学校に巡回して指導を実施しています。この取り組みは、市独自の取り組みとして 10 年以上前から行われているそうです。巡回の状況については、学校給食センターが把握していると思いますが、一応、共有

発言者	内容（要旨）
会長	<p>だけでなく、全校に対して巡回指導を実施しているという状況となります。</p> <p>栄養教諭が自身の所属する学校で、所属校以外の1年間の全体計画を作るのはなかなか難しいでしょうし、作ったとしても、その通りに指導を進めるのも難しいと思います。そうした中で、多少の不平等が生じているのが現状ではないかと思います。このことを、愛知県が作っている第4次愛知県食育推進計画のパブリックコメントでも、少し意見をさせていただきました。本当は、親の皆さんから「もっと子どもたちの食育をやりたい」と言っていただけるのが一番良いと思っています。</p> <p>その他、ご意見はありますか。</p>
委員	<p>私も子どもがいますが、「朝食指導で提出しないといけないから、朝ご飯をちゃんと作って」と子どもに言われ、親子共々、この朝食指導が学びになった経験があります。親の方も教育していただく、そういう機会はすごくいいと思います。私は農業者として、昨年度はサツマイモ掘り体験を何回か行ったのですが、その参加者の中で3歳くらいの幼児を持つ親から「今度焼き芋をやるまで、掘ったサツマイモを預かってほしい」と言われました。預かること自体は簡単なことですが、本来そういうものではなく、今ではいつでもスーパーで買ってしまうのですが、実際にどのように保存するかなど含めて学んでほしいことをお伝えしました。子どもたちは学校の中で学んでいきますが、親は学ぶ機会がないので、先ほどのようなご意見のように、家庭に持ち帰って一緒に学ぶのは良いと思います。そういったきっかけから親も学ばないとダメなのかなと思いますので、朝食指導のような企画をやっていただけると、とても良いと思います。</p>
委員	<p>第3次食育推進計画の目標値について、平成30年度に食に関するアンケートを行ったと思いますが、その結果から見えてきたものが第3次計画の目標値に還元されていないように感じます。私が気になっているのは、新型コロナウイルス感染症のワクチンの早期接種対象者に、基礎疾患のある人と太っている人も入っています。単純に「太っている」という言葉でくくられている項目を見ると、平成30年度のアンケートの中で、自分の標準体重を知らない人が非常に多かったことを思い出します。目標値は高い目標設定されていますが、例えば、適正体重を知っている中学生は39.1%しかなくて、知らない中学生は59.9%、約6割もいるんですね。標準体重について、どこかで習っているはずなのに。自分が太っているかどうかは、自分の体を把握する上でとても大切なことです。一方で、ワクチンの早期接種対象者の太っている人とは、政府は何を基準にしているのか気になって。話を少し戻すと、アンケート結果では、例えば外食を選ぶときの項目でも低い数値とかがいっぱいありました。やはり、そういうものを反映していないと。いつも同じような事業の繰り返しでは数値は上がらないと思いますし、数値が上がるようにもっと細かい、今年度はこうしようという小目標や取り組みを立てていかないといけないと思います。その部分を検討していただければと思います。</p>
委員	<p>前回のアンケートのことですね。その結果を反映して第3次計画が作られてい</p>

発言者	内容（要旨）
	<p>ますが、反映されていない大切な資料があるのでは、ということですね。</p>
委員	<p>せっかくアンケート調査を行って、結果として見えてきたもの、自身が太っているとか野菜不足を感じている人、反面、そう思っていない人がどれくらいいるとか、具体的な数字に表れているのに、それが反映されていなくて。</p> <p>最近、野菜が不足しているかチェックできるベジチェックというのがありますが、測定機に手を当てるだけで確認できるんですよ。皮膚のカロチノイドから測っていくっていうのをカゴメが独自開発して貸出していますが、測定結果は円グラフで表示され、野菜不足度を 20 ランクで判定されます。エビデンスが高いかはわかりませんが、指導方法の一つとしては使えるのかなと思ひまして。一日貸出 5 万円くらいだったと思います。</p>
事務局	<p>貸出費用がかかるので、まだ検討まで至っていませんが、健康課では、もし来年度の健康・福祉フェスティバルが開催できれば、その中の企画の一つとして使ってみたいという話は出ています。</p>
委員	<p>せっかく行ったアンケート調査なので埋もれさせず、出てきた調査結果で気になるところは拾っていただきたいです。</p>
事務局	<p>確かにアンケート調査の結果は、市の財産の一つといえます。次回、全委員にお渡しさせていただき、委員の皆さんから気になることや状況を確認いただくことで、何らかの取り組みや改善の検討の材料になっていくと思いますので、一度、メールか何かで資料提供させていただきます。</p>
会長	<p>ありがとうございました。その他ご意見等がありますでしょうか。</p>
委員	<p>(特に意見なし)</p>
会長	<p>それでは、事務局及び関係部署においては、本日出ました意見を参考にして、今後の事業を進めてください。</p>
会長	<p>それでは続きまして、意見交換に入ります。せっかくの機会ですので、皆さんがどのような食育活動に取り組んでいるのか、また、こんな取り組みをしてみたいけど困っていることがある、といったことを気兼ねなくお話いただければと思います。</p>
委員	<p>NPO 法人ファミリーステーション Rin では、子育て支援を行っていますが、今、離乳食の問題がとても大きな問題です。例えば、1 歳のお子さんを持つ母親の話になりますが、お子さんをこれ以上太らせたくないとの相談があって、母親自身が見た目等をとても気にしている人でした。この時期の子どもは体を作る時期で、ぼっちゃりしていても、食を制限する必要は全然ないんですよ。それでも、母親の方は、やはり見た目を意識していて、数値に左右されたり、インターネットで色々調べたり。もしかしたら、小中学校の保護者でも同じようなことがあるのかなど。離乳食でも、とても味付けに注意して手作りしている人もいれば、まったくしない人もいて、両極端な人たちがいるように思いますが、皆さんはどう思いますか。</p>
会長	<p>そうですね。母親にもいますが、子どもたちにも太りたくないと思っている子はいます。それが原因で、給食を残してしまう子もいます。適正体重を知り、そ</p>

発言者	内容（要旨）
	れに近づけていく意欲・モチベーションを保っていくのかということの方が、標準体重を知ることよりも、健康であることの大切さが伝わっていくといいかなと思います。女性の中には妊娠中にあまり太りたくないという人もいますし。
委員	生まれてくる乳幼児の体重も減っています。統計的にも表れています。
委員	気にしない人は、全然気にしませんね。乳幼児の栄養指導を行っていますが、極端にオーガニックしか食べさせない親もいれば、2歳くらいからマクドナルドのポテトを普段から食べている子もいると聞いています。格差が開いている気がして、それを心配しつつ、どこまで拾い上げていくのか、気になっています。
会長	<p>今、健康に関する格差が広がっています。健康に関心がある人は積極的に情報を取り入れ、講座に参加するなど健康になっていますが、無関心な人は本当に無関心で、健康格差が生まれているというのが問題になっています。</p> <p>愛知県では、知らず知らずに健康になれるような仕組みを作りましょう、との流れになっています。食環境づくりに向け、商工会には工夫できるところやご協力いただけるところがたくさんあるように思いますが、いかがですか。</p>
委員	いい意味でも悪い意味でも、知識量や意識に対する個人差が大きいですね。表示については必須ですので基準どおりに記載しますが、それが正しく受け取ってもらえているかは分かりません。先ほどの、野菜を捨てた家庭もあれば、気にせず食べる家庭もあったというのも本当に個人差だと思いますし。どのようにしたら、ある程度のところにもっていけるのかなと考えさせられますね。
会長	管理栄養士さんは苦勞されているのではないのでしょうか。栄養成分表示を表示する食育推進協力店という登録制度がありますが、飲食店がメニューにカロリーや栄養成分を表示すると、「こんなにエネルギーあるの」といった反応で、逆に売れなくなってしまうこともあるみたいで、表示に関しては難しい問題ですね。
委員	菓子は糖度があるので、見た目以上にカロリーが高く出ますが、やはり気にされる人はすごく気にされます。一方、ジュースの場合は、角砂糖何個分入っていますと言われるとすごい入っていると捉えられますが、小さじ何杯分程度と言われると、感じ方がまた変わってくるのかなと。データをどのように挙げて、どのように受け取られるのか、よく分からないことが多いです。私の子どもが小さい頃、育児に関して「ジュースはどのくらい与えていますか」ということを聞かれましたが、全ての食事の中での摂取カロリーが重要で、ジュースだけが多いわけではないし、他のも見ないといけないのに、そういうのはどうなのでしょう。
会長	環境を作っていく一方で、生活者に対する教育も必要な部分もあって、両方が連携していけるといいのかなと思います。その中で食材関係でも、うまく連携できればと思います。
委員	家庭教育推進委員会は、名前は家庭教育となっていますが、学校行事の一環として地域の皆さんに協力いただきながら田植えや稲刈り、竹林整備などの取り組みをしています。食育に関しては、伝統的な食事とか地元の野菜とか、もっと子どもたちに知ってほしいという思いもあります。新型コロナウイルスのような状況だからこそ、やれることを考えていまして。ふと思ったのが、スーパーは四季

発言者	内容（要旨）
	<p>を通じて野菜も果物も、買いたいものを、買いたいときに買えるのが良い点ではありますが、旬ではないものが並べられているのが実際のところです。例えば、小学校の家庭科の時間に、日進市で改良された新しい品種の野菜を紹介や、JA が出向いていく授業があってもいいのかなど。今、私の個人的な楽しみの一つが、セブンイレブンが地元の旬の野菜を並べているので、それを買いに行くことです。見たこともない野菜が並んでいることもあるし、日進で採れた野菜がとっても美味しいんですね。ニンジン一つとっても、本当に野菜の香りがしますし新鮮です。そういうものを子どもたちには、食べて知ってほしいと思います。大人だから知り得た情報というものはありますが、小さい頃から「これは、本当は夏の野菜だよ」「日進の新しい野菜だよ」と実物を見せ、クイズ形式のような授業時間があってもいいんじゃないかと思います。それがゆくゆく将来、日進の PR になり、伝統野菜や伝承料理にも結び付けられればいいなと思います。</p>
会長	<p>私もそういうことに興味があって、東海地方で、どういうものが、いつに出回るのか調べて冊子や一覧にしたり、どんな料理ができるのかレシピを作ってみたりしています。日進市でも、何月にこれが出回りますよ、農協で買えますよ、といったカレンダーのような教材ができるといいなと思っています。</p>
事務局	<p>現在作成されていたりしますか。</p>
会長	<p>ここでこういうものを作っていて、ここでこういうものが買えるよと分かる、子どもたちが観覧できる地図はあります。それは地図なので、カレンダーみたいなものを作ってほしいなど。東海地方では魚版などが作られています。海外の発展途上国の中でも作ろうかなと思っていたんですが、新型コロナウイルス感染症の影響で作れなくて。カレンダーだと、いつ入手可能なのかというのが分かるし、気候によっても変わるというのが子どもたちにも分かる。ここにこうやって書いてあるけど、この前大雨降ったから遅くなってるとか、値段が高くなっているとか、そういうことも含めて学べる教材があるといいなと思います。</p>
事務局	<p>先ほど話が出ましたセブンイレブンの取り組みは、市農政課がいろいろ関わっていますが、農家を紹介いただいたのが JA の担当者です。地元の野菜を子どもたちに紹介する機会は少ないので、やはり学校給食との連携かなと考えていますが、地域の皆さんにもいろいろな機会で地元の野菜を知ってもらって、日進市の農業を応援してもらって、農地を守ることにつなげていく、それが当たり前のことになっていくといいなと思います。</p>
委員	<p>会長の話を聞いて、やはり季節ごとに、旬の野菜の時期と合わせて伝統料理のレシピをカレンダーや広報紙に乗せていただけると、自身の活動においても少し協力できるのかなと思います。</p>
委員	<p>伝承料理のお話が出ましたので、会長の話を聞いて、やはり季節ごとにこの野菜ができることと、合わせて伝承料理のレシピをそのカレンダーや広報に少し載せていただくと、生活改善としても少し協力ができるのかなと思いました。今年度は、新型コロナウイルスの関係で味噌作り教室などの講座が全て中止になりました。しかし、個人的に思っているのは、味噌や梅干しは免疫力などの意味で</p>

発言者	内容（要旨）
	もすごく大切なことで、こういう時期だからこそ手作りで子育て中の親に伝えられたらいいなと思っています。飲食はないので、きちんとディスタンスを取って、皆さんにもご協力いただいて、来年度以降も開催できたらいいなと思います。
会長	今、私たちで作成している伝承料理の動画とかと合わせて紹介できたらいいですね。
委員	そうですね。そういうのができたら日進市としても盛り上がってくると思います
会長	本来なら、一人一人にお伺いしたいところではありますが、時間の都合上、次に進めます。続いて、その他連絡事項等ありますでしょうか。
委員	現在の学校給食での日進市産食材の使用量の割合というのは、ほとんど米ですよ。なかなか生産者がいないとか、量が揃わないとかあると思いますが、野菜が少なくなっている印象を受けます。しかし、大きい市場産地の取り組みと比較されると、どうしても日進市には合わなくなっていくと思います。その辺りを踏まえて推進をもう少し行っただけだと、生産者もやりがいがあるのかなと思います。実際に今年、小学校給食にサツマイモを卸させていただきました。子どもが「今日はうちのサツマイモなんだよ」というと友達が「えー」と驚いて、話が盛り上がったみたいです。やはり顔が見えるというのが良いと思うので、前向きに数字が上がっていくといいなと思いますね。また、今年初めて保育園給食にタマネギやサツマイモを卸させていただきました、新たな試みでありがたいなと思っています。
会長	事務局から何か報告事項等がありますでしょうか。
事務局	市の予算に、食育啓発用の予算が 50,000 円程度あります。昨年度は、食育に関するエコバックを名古屋学芸大学メディア造形学部にデザインをお願いし、若者の食生活が良くないだろうということで大学 1 年生に持ってもらい、日頃から啓発に努めてもらう取り組みを、市内の名古屋学芸大学や愛知学院大学で行いました。今年度も同額の予算があるので、日進市生活改善実行グループや名古屋学芸大学と連携し、伝統料理、基本的に親子で地の野菜を使うとか昔からの料理に親しんでいただくという視点で取り組みを考えています。料理はおはぎとおこしものを候補とし、親子で一緒に作れるようなレシピを、メディア造形学部に分かりやすくデザインしてもらいながら、チラシを学校で配布していただくかなと考えていましたが、先日、会長の安達先生とお話したところ、チラシはすぐ捨てられるのでクリアファイルの方が良いのではないかとアドバイスをいただきました。検討の結果、クリアファイルに変更して、保健センターの 3 歳児検診などの場で配布して食育の啓発ができればいいなと考えています。取り組みの経過は、またご報告いたします。以上です。
会長	その他、委員の皆さんから何かありますか。
事務局	今、蟹甲町の槌屋さんでは、黒ショウガを使った羊羹を作っていると聞きました。
委員	私も、あまり詳しくは理解していない部分も多いですが、黒ショウガには体に

発言者	内容（要旨）
	良い成分が多く入っているということでお話があり、新しく試作しています。
事務局	黒ショウガは、市内の農業者が生産していて、アンチエイジングになるような新しい農産物になります。ただ、そのままではなかなか食用に向かないものもあり、加工して羊羹に入れてみた製品です。そういったものも新しい食育の一つとして、市民の皆さんに興味を持ってもらえたらと思っています。
委員	黒ショウガって黒いんですか。
委員	紫イモみたいに、中身が黒いです。私も生の黒ショウガはほとんど見たことがなく、試作でいただいているのは粉末になっているものです。健康サプリメントみたいな形で展開していければと話をいただいている、摂取しやすい形を模索していて羊羹に入れてみました。漢方ではないですが、そのまま食べると苦くて、なるべく風味が出ない形で思案しています。子ども向けというよりは、どちらかといえば大人向けですね。
委員	それは日進市の地産地消ということですかね。初めてお聞きした野菜ですが。
事務局	黒ショウガは、タイが原産地で、日本では生産量が非常に少ないです。黒ウコンとも呼ばれていますが、非常に栽培が難しいと言われる中、市内に研究者がいて、その人が栽培ノウハウを持っていますので、これから市内の農業者に広げていけたらと取り組んでいます。現在、市内にある福祉団体の皆さんが栽培に試験的に取り組んでいて、新型コロナウイルス感染症の影響により工賃が非常に厳しい中で、羊羹やサプリメントの売上により工賃に返ってくるというのを考えています。うまくいけば、市内で生産者を増やせたらと思っています。
委員	その研究者は、栽培ノウハウの権利を取っていきたいという形で進めていきたいそうです。将来的には、日進市の許可がなければ国内では生産ができないところまでもっていったらと考えているみたいです。
委員	日進市から発信という点では良いですね。
委員	新しい地産の形になればということなんですが、ただ、今は生産量が少なく、大量生産できるかどうかも課題があると思います。
会長	その他、全体を通して意見・質問はありますか。
全委員	(特に意見なし)
会長	その他、事務局から連絡事項等がありますか。
事務局	次回の会議の予定につきましては、来年度となります。正式な日程につきましては、決まり次第、通知を送らせていただきます。
会長	これで令和2年度第2回日進市食育推進委員会を終了します。ありがとうございました。
	閉会（午後4時00分）